

儀、御免被成候間、作用方并船數共、委細相伺、可差圖受旨被仰出候、尤右様御制度御變通被遊候も、畢竟御祖宗之御遺志、御繼述之思召より被仰出候事に候間、邪宗門御制禁等之儀者、彌以如先規相守、取締向別而嚴重に可被相心得候、

九月

右之通、萬石以上之面々江被仰出候間、可被得其意候、

〔徳川禁令考<sup>三十八</sup>〕安政元寅年十月五日

荷船製造方之儀ニ付御書付

備前守殿御渡

大目付江

今度御法令に、大船製造可言上之旨被仰出候、然ル處荷船は前々より御許し有之事ニ付、有來通製造之儀ハ、是迄之通可相心得候、尤荷船たりとも、製造方其外有來と相違致し候ハ、此度被仰出通、相心得可申候、

右之通、萬石以上之面々江相達候間、萬石以下之向江も可被達候、

九月

〔嘉永明治年間録<sup>十</sup>〕文久元年六月廿二日百姓町人大船所持免許

百姓町人共、大船所持致し候儀、御差許相成候間、勝手次第製造致し不苦候、且又外國商船等、買受度候者は、最寄港奉行へ可申出候、右船所持致し候上は、御國內手廣に運漕御差免可相成候、尤も航海不事馴差支候者は、願次第按針の者、並水夫等御貸渡可相成候、尙航海手續等、委細の儀は、追て可及沙汰候、扱又右船製造、且買受候者は、其節船形繪圖面を以て、當人又は御代官領主地頭より、御軍艦操練所へ可申出候事、

右之通、御料は御代官私領は領主地頭より、可被相觸候事、